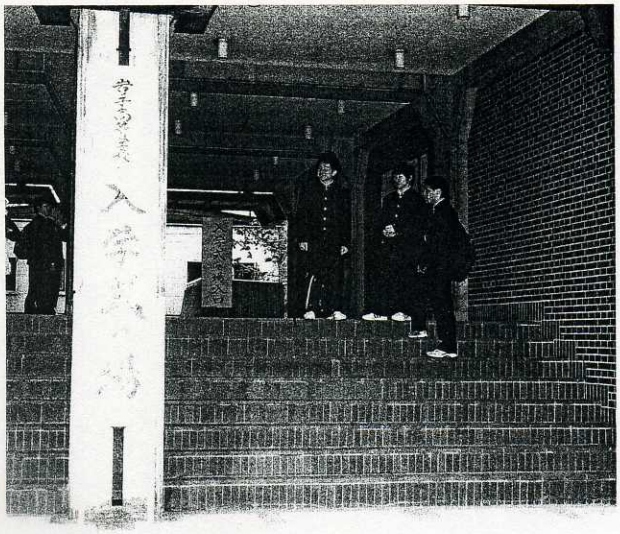
石櫻新聞

第1面
入学式
進学状況
第2・3面
卒業式・離任式
第4面
各部の活躍

平成15年4月25日発行
第122号
発行　岩手高等学校
盛岡市長田町
印刷　山口北州印刷㈱



祝入学

全ては自分の気持ち次第

今年度入学者　173名

平成十五年四月八日に僕達一年生の入学式が行われました。

まず、新入生一人一人が緊張した様子で入学式会場に入ってくると待っていた担任の先生と、

「よろしく」

「よろしくお願いします」

と挨拶を交わしました。

最初の方では、個人の名前を呼ばれました。僕は自分の名前を呼ばれるまでずっと緊張していました。

入学式は、校長先生による訓辞、ご来賓の方々の祝辞をいただき、厳粛に行われました。

校長先生が話の中で、「自分のやる気で、自分の高校生活が変わる」ということを言っておられたので、僕はこれからの学校での生活や授業でやる気を持って積極的にやっていきたいと思いました。

また、感動したのは、「勉強の時はめいっぱい勉強し、遊ぶ時はいっぱい遊べ、ただし、やる時はしっかりやれ」という言葉でした。

続く学年会では、校長先生から岩手高校の歴史と校歌を作曲した方についてのお話を聞いたり、一学年の先生方から、「積慶、重嘩、糞正」についての説明や岩手高校生徒としてのきまりなどの説明をしてもらいました。

対面式では、初めて先輩方と会いました。

クラブ紹介は、それぞれの部の代表の先輩が活動の内容を詳しく説明してくださったり、実際にステージで部活動の一部を再現してくださったりして、岩高の部活動をよく理解することができました。

一番面白かったのは、陸上部のダンスでした。とっても楽しかったです。

最後に応援団が僕達一年生に応援をしてくれてとてもうれしかったです。

【一A　駒井啓弥】
【一B　吉田裕行】
【一D　佐藤佑亜】

北海道大・静岡大・県立静岡大に合格者

―平成14年度大学進学状況―

この春の大学への進学状況が出そろった。

国公立大学の合格者は、現役生が六名で過年度卒業生が五名の合わせて一一名だった。昨年は、現役生だけで一一名で、ほかに過卒生が八名いたから、今年は減少したことになる。これは、本校卒業生の数が減っているせいもあるだろう。

北海道大、静岡大、県立静岡大は、新しく合格者の出た大学である。その一方で、昨年までは合格者のあった岩手県立大学の合格者がいなかったのが残念である。

私立大学の合格は、現役生が一〇七名で過卒生が四九名だった。昨年は、現役生が一〇七名で過卒生が四〇名だったから、こちらは、昨年並みか、微増と言える。

進学について考える

次に、新三年生の進学に関する思いを掲載する。

高二の時は、大学入試センター試験についてはあまり実感がわかず、ただ中間・期末テストだけ力を入れていた。

しかし、高三の春になるとセンター試験や進路の話などがクラスにぽつぽつ出てくるようになった。進学先、校内推薦、内申点と考えることがたくさんで、だんだん焦り始めている。

今の社会は、不況が続く中、中・高校卒業者の就職も低迷し、大卒者でも就職できない場合が多くなっている。

それでも、自分の夢に向かうためには、専門的な知識が必要とされるので大学への進学が不可欠なのだ。

特進・選抜コースは、ますます授業の内容が難しくなるとともに、さらに一、二年時の復習もしなければならない。

今はまだ本腰を入れている人は少ないと思うが、十二月ごろに焦らないように、今からでもがんばって志望校に合格できるよう、日々の勉強を怠らずにがんばろう。

【三F　佐々木弘樹】

石割桜

厳しかった冬も気が付けば穏やかな春へと変わり、別れと出会いの季節になりました。▼本当に冬は短かかった気がします。冬休みが明けて、すぐ卒業式。お世話になった三年生の皆さんはそれぞれの進路に向かって歩き出していきました。続けて、終業式。各学年とも一年間を締め括りました。春休みが明けて、始業式。二年生はクラス替え、新しい仲間との出会いがありました。三年生は最高学年として、後に来る受験に向けて決意を新たにしました。そして、入学式。新しい生徒達は、まだあどけなさの残る表情が初々しいです。……と今までを振り返ってみました。本当に時間が経つのは、あっという間だなあと改めて思いました。▼これから高総体、県民体と大会も始まります。各部とも冬に鍛えた成果を余すところなく発揮して欲しいものです。▼新しい年度の始まりという事もあって皆それぞれに目標をたてたと思います。一人一人がその目標を達成出来るようにこれから頑張って欲しいです。特に三年生は、受験、また最後となる各部の大会も悔いのない試合をして欲しいと思います。

【三B　八幡泰寛】

平成15年度大学・短大合格者一覧

平成15年4月11日現在

大学名	学部	学科	現役生	卒業生
〔国公立大学〕				
北海道大	工学資源	情報		1
岩手大	人社	法学・経済	1	
	工	応用化学		1
		機械工	1	
		電気電子	1	
		福祉システム	1	
秋田大	工学資源	環境物資工	1	
		地球環境	1	
静岡大	工	物質		1
青森公立大	経営経済	経営経済		1
県立静岡大	薬	製薬		1
		国・公立大学計	6	5
〔私立大学〕				
札幌学院大	人文	人間科学	1	
札幌国際大	人文	国際文化		1
北海道浅井大	人間福祉	介護福祉	1	
千歳科学技術大	光科学	物質光科学	1	
道都大	経済	経営		1
稚内北星学園大	情報メディア	情報メディア	1	
		北海道私大計	4	2
青森大	社会	社会	2	
		社会福祉	1	
八戸工業大	工	機械情報技術	3	1
		電気電子	1	1
弘前学院大	文	日文	1	
	社会福祉	社会福祉	1	
岩手医科大学	医	医	2	
	歯	歯	2	2
盛岡大	文	英米文	3	3
		児童教育	3	
		日文	3	1
富士大	経済	経済	4	
	経済	経営法	4	
石巻専修大	経営	経営	1	
	理工	機械工	1	
仙台大	体育	健康福祉	1	
		体育	1	
東北学院大	文	史学		1
	法	法律	3	
	経済	経済	3	
	経済2	経済		1
	工	電気情報工	1	
		環境工	1	
		物理情報		1
東北工業大	工	建築	1	1
		電子工		2
		建設システム	1	
		工業意匠		1
東北福祉大	総合政策	情報福祉	1	1
東北文化学園大	科学技術	技術応用情報		1
東北芸術工大	デザイン	情報デザイン	1	
秋田経済法科大	法	法律	2	
	経済	経済	4	
東北文化公益大	公益	公益		1
いわき明星大	人文社会	心理	1	
奥羽大	文	日本語	1	
		東北私大計	54	18
東京福祉大	社会福祉	福祉社会		1
流通経済大	経済	経済		1
高崎健康福祉大	健康福祉	健康情報		1
城西大	経済	経営	2	
文教大	情報	情報システム	1	
		広報		1
城西国際大	人文	メディア	1	
千葉商大	商経	経済	1	
千葉工大	工	土木		1
中央学院大	法	法	1	
帝京平成大	情報	デジタル	1	
		経営情報	1	
東京情報大	総合情報	情報文化	1	
		東京周辺（北）私大計	9	5

大学名	学部	学科	現役生	卒業生
青山学院大	経済	経済	1	
駒沢大	文	国文		1
	仏教	禅	1	
工学院大	工	電気		1
成城大	経済	経済	1	
専修大	法2	法律		1
大東文化大	経済	社会経済		1
		現代経済	1	
拓殖大	商	経営	1	
	政経	経済		1
中央大	文	独文		1
帝京大	文	米英言語	1	
	経済	経済	2	
	理工	電気電子	1	
		バイオサイエンス		1
東海大	工	土木	1	
東京工芸大	芸術	映像		1
東京工科大	コンピュータサイエンス	コンピュータサイエンス	1	
東洋大	法2	法律		1
	社会2	社会	1	
東京理科大	理2	数学		1
東京農大	生物産業	産業食品科学		1
明星大	情報	電子情報		1
二松学舎大	文	国文	1	
		中国文	1	
日本大	商	商業		1
	理工	土木		1
	工	土木	1	
		機械工	3	
		物質化学工	1	
		建築	1	
		電気電子		1
	生産工	管理工	1	
日本歯科大	歯	歯	1	
法政大	法	政治	1	
		東京都地区私大計	23	15
神奈川大	法	法律	1	
	経営	国際経営	1	
神奈川工科大	工	機械工	1	
		電気		1
		東京周辺（南）私大計	3	1
帝京科学大	理工	メディア		1
金沢工大	工	人間情報		2
大谷大	文	哲学	1	
		仏教	1	
同志社大	文	文化	1	
	法	法律	1	
	経済	経済	1	
	工	電気工	1	
大阪芸術大	芸術	映像	1	
第一薬大	薬	薬	1	
		関東以西私大計	8	3
		私立大学合計	107	49
〔短期大学〕				
岩手県盛岡短期大		生活技術	1	
盛岡大短大		幼児教育	1	
帝京大短大		情報ビジネス	1	
		短期大学合計	3	
〔大学校〕				
岩手県立産業技術短期大		電子技術	2	
		メカトロニクス技術	2	
岩手県立農業大学校		農業経営	1	
		大学校合計	5	
		全体合計	115	49

春のスタート 第一歩

四月五日、始業式が行われた。

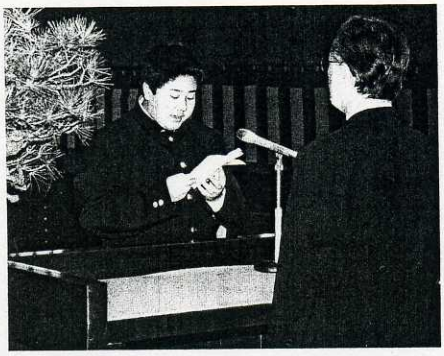
体育館に集まり並んだ時、一年のころより明らかに後の方にいることが三年になったことを実感させた。

まず初めに、校長先生が各クラスの担任の紹介を始めた。三Cの本多先生が退職され、残りの一年間は誰が担任になるかが気になっていた。担任は八重樫先生になった。これからは本多先生がいないからといって、あまり制服とかがだらしなくならないように注意しようと思った。

次に、校長先生の話が始まった。話の中に二つのポイントになることがあった。一つは、積極的に何でもする。もう一つは、挨拶をする、ということだ。自分も今年は受験とかいろいろあるので、勉強の分からないところを積極的に聞いたり、挨拶などの礼儀にも気をつけたりしようと思った。今年度はまだ始まったばかりなので、勉強や部活をがんばっていきたいと思った。

【三D　猪原大輔】

卒業式そして離任式



三月二日、私たちの先輩方の卒業式が行われた。誰もが何度か経験したことがあるが、もの悲しいのが卒業式のイメージである。女子がいれば、必ず号泣し、別れを惜しむところだろう。

だがしかし、この岩手高等学校で涙を流した人はいるのだろうか。たぶんあまりいないと思う。男子校という理由は措いたとしても、泣く人はほんのひと握りじゃないかと思う。何かが足りないのではないか。

「岩高で泣く奴いねえだろ」という声も何度か耳にした。私が思うに、大人になれば、金もあるだろうからいつでも会えるし、携帯電話等で簡単に連絡もとれる、という考えを持ってしまったからだと思う。

だが、最近、卒業式ではなかったが、涙する人を目撃した。I先生を長とする学年団の先生方である。離任式で、本多先生の挨拶に入った時だった。先生の挨拶の途中、横に並ぶ先生方の方に目を向けると、真っ先にI先生に焦点が合った。スピーチ中、先生は懸命に涙をこらえていたのだ。泣きたいのは離任する先生も同じであろう。残られる先生方が泣いては、去られる先生方に何だか申し訳がないような感じだったのではないかと思う。

別れの式で、それまで精一杯にやってきている人ならば、やはり涙もこぼれるのではないか、と思った。

【三D　祝田聖】

離任・退職された先生方より

先生方に感謝の気持ちをこめて

この三月、五人の先生方が我が校を去られた。

これまで、いろいろとお世話になった先生方に感謝申し上げたい。

菊池軍次　教頭先生

長期にわたり岩手中・高校に勤められた菊池軍次教頭先生がご退職されました。

先生は、始業式などの進行をされたほかに、保健体育の授業を受け持たれていました。

僕たちも先生に教えていただきました。

保健は面白かったです。前にやったことのあるページをまたやったことがありました。それに僕が気づいたのは結構後だったので、とても言い出せませんでした。ごめんなさい。テストの構成も他の先生より簡単で助かりました。教科書の読み方にも味がありました。

体育の面でも素晴らしく優しくしていただきました。でも少し臨時が多いと感じました。バスケットの時、ほとんど入らない人のシュートが入った時に決まって「おー間違って入ったな」とほめてくれます。バレーボールとサッカーはやる確率が低かったです。

あんなに楽しく親しみやすい先生が退職してしまうのはとてもさびしく残念です。とてもいい先生でした。

【三甲　遊佐祐太】

先生から

退職に思う

平成十五年三月末をもって退職するにあたり、母校として、在校生に感謝と期待の思いを述べたいと思います。

昭和四十年からの教員生活で、すばらしい多くの生徒達との出会いがあり、教員でなければこの貴重な体験に浴することが出来なかったのでは、との思いが強く、教職に就けたこと、母校に奉職出来たことに感謝の気持ちで一杯です。

皆さんは、若さ溢れる青春の時を、勉学にクラブ活動に全力で挑戦し、友人と夢を語り、目標に向かい努力していることでしょう。そのことこそが、たとえ失敗したとしても、賞賛に価し、美しい姿なのであり、石桜精神に通じることと思います。

殺伐とした現代社会における青年達の「きれる」「無気力」「自己中心」に代表される社会風潮の中で、今だからこそ、じっくり自分を見つめなおす時間があってもいいのではないでしょうか。

「やさしさ」「いたわり」「素直」そしてさわやかな笑顔と心のこもったあいさつに出会った時、どれほど人の心がなごみ熱くなることでしょう。

私達は人間として失敗はあります。しかし、失敗を恐れず、あきらめず、果敢に挑みなさい。そして、忠告に耳を傾け、可能性を信じ、一歩一歩着実に前進して下さい。

「継続は力なり」全ての事に通じることです。日々の努力が芽を出し、やがて大輪の花を咲かせるでしょう。皆さんの洋々たる前途を祝し、一人一人が持てる力を十分に発揮できるよう忍耐と努力に期待しております。岩中生・岩高生に声を大にして応援します。

ガンバレ

遠藤清安　先生

遠藤先生は三十七年間本校に勤められ、風邪をひいてお休みになることなど全くなく、物理部の顧問や副顧問をなさり、私達に物理を教えてくれた先生でした。

先生の授業は、添削や、中間・期末の他の小テストなどで、生徒一人一人の実力がしっかりと上がるように、いろいろ方法を考えて、私達の勉強を沢山サポートしてくれるものでした。また、竹の棒を持って生徒とのスキンシップを大切にしていました。

ほかにも、朝一番で学校にいらっしゃり学校が開くまでお待ちになることを習慣にしておられました。

生徒に厳しい指摘をする一方でお孫さんにはとても甘いという意外な一面もおありでした。

ご退職後は、趣味の花をたくさん栽培するという夢を語っておられました。

私達が教わったのはたった一年でしたが、先生は三十七年間勤め上げられました。お疲れさまでした。

【三E　竹花秀樹　富永宏基】

武田真和　先生

先月三月退職をされた武田先生、実はお坊さんでした。

武田先生は面白い先生です。その面白さの秘密は、なぜか自分のことをジョニーと言ったり、ギャグを言ったりするところにあります。

武田先生が授業の時に、ギャグをかまして、話が違う方向に行ってしまったことが印象に残っています。

ギャグだけで授業があまり進まない時もありました。いつも、面白い話をしてくれました。そんな武田先生が退職するなんて、思っていませんでした。

武田先生が怒って大きな声を出したところを見たことがありません。

そんな武田先生が好きでした。

【二甲　野田智弘】

畠山恵　先生

畠山先生は、岡田先生が休暇をとられた昨年の五月から、ほぼ一年間、保健室で、我々の健康についていろいろとお世話をしてくださった。

花巻のご出身であり、大学を卒業されて、初めて着任されたのが我が校だった。男子ばかりの学校で、さぞかしご苦労が多かったことだろう。

応援歌練習の時には、保健室に来る生徒がとても多かったと書いておられた。着任早々、そういうことで驚かれたことだろう。この一年どうもありがとうございました。

先生から

みなさんの前で何の挨拶をすることもなく、突然保健室に現れては去って行きますが、岩手高校で過ごした十一か月間は本当に楽しかったです。

大学を出て一年目ということもあり、教員としての対応はかなり未熟で、みなさんを不満な気持ちにさせてしまったことも少なくないと思います。ですが、その分、近い感覚でいろいろ話せたのかなとも思っています。

そのなかで、みんなはすごく身長や容姿を気にして、様々な努力をしているのだということを感じました。もちろんそれもいいことですが、それだけでは魅力的な人とは言えません。

三年間の高校生活を通して、内面を充実させる努力もして、中身の良さが外見にも現れるくらいの「いい男」になっていってください。

本多好郎　先生

本多先生に初めて会ったのは二年前の入学式だった。背が高い先生だ、と思ったぐらいしか覚えていない。それくらいしか思うことがなかったのは、本多先生も少し緊張して、いつも通りにふまえなかったからかもしれない。いつも通りの本多先生といえば、子供のように感情表現が率直な先生であると思う。先生が怒っている時は、教室に入ってきた瞬間に分かる。それだけで、クラスの騒々しい雰囲気は消え失せる。怒っている時の先生は手に負えない（以下、委員会の判断で内容の一部を省略）。一方、うれしいことがあれば、ハタから見てもバレバレで、うれしそうなオーラが本多先生を包んでいる。先生のことについて、このようなことを僕は思い出しています。

【三C　細川千尋】

先生から

生徒として岩手中・高等学校に在籍した六年間と、教職生活の十五年間とを合わせると二十一年間、今四十歳なので、人生の半分以上を本校で過ごしたことになります。

父が国鉄（現JR）に勤務していたため、国鉄官舎のあった盛岡駅前で生まれ、桜城小学校に入学し、五年生の時に家を建てたために太田に引っ越しました。六年生までは転校せずに通い、卒業したのですが、中学校の学区が大宮にかわってしまったため、友人が多く通っている城西か下橋への入学を希望したのですが許可されませんでした。そこで浮上したのが一緒にバス通学をしていた友人が行くことにしていた岩手中学校でした。親兄弟や親戚が卒業したわけでもなく、全く無関係で入学したので、周りからとても不思議がられました。本当に縁というのは面白いものでこれが岩中との出会いです。

また、中学校を再開しての二年目だったので上級生

は二年生だけしかいませんでした。十五人入学して、そのまま高校に上がったのは十二人でしたね。担任の先生は藤村先生（現岩手女子高校）で、山岳部を全国優勝させていた凄い先生でした。その教えは今でも指導の基本となっています。

やんちゃ坊主で喧嘩ばかりしてました。中三の時、その年入学してきた高校生になめられたってボコっちゃったら、厳しくて恐かったけど尊敬していた父が相手の家で頭を下げて謝ることになりました。その姿に、「これはイカン」とんでもないことをしてしまった」と、とても反省したのを覚えています。

部活動は高校生と一緒ということでしたが、どうしても野球がやりたくて、軟式野球部を創ってもらい、市中体に参加しました。全然勝てませんでしたが……。野球はそのまま高校でも続け、ピッチャーとして甲子園を目指しましたが、大事なときに肩を壊してしまい、残念ながら夢を叶えることはできませんでした。監督を始め、顧問の先生、チームメイトそして期待して応援していただいていたたくさんの方々に申し訳ないことをしてしまいました。本当に、ごめんなさい。

高校の担任は一年前期が村上先生（現同窓会長）、後期にクラス替えがあって遠藤先生（三月退職、当時の学年団で残っているのは原田先生だけになっちゃいますね）に代わり、卒業までお世話になりました。しょっちゅうグローブのような手でビシビシと可愛がっていただいたのと、就職してからも同じことがあったりして、在校中から大嫌いだったのですが、卒業して十年目の時にフッとした瞬間に遠藤先生のおっしゃっていたことがわかり、まさに参りましたという感じでした。「その時わからなくても、いずれわかる時が来る」という教師の凄さと素晴らしさを実感させていただきました。それからはとても大好きな存在となり、今でも相変わらずアドバイスをいただいています。そんな生徒でしたが、卒業式に優等賞・奨学金・精勤賞をいただけたのは、今でも自信となっています。授業では、何よりも体育が大好きで菊池先生（三月退職、前教頭）、高橋先生、佐藤先生のいつも楽しい授業を受け、体育の道に進む決心をしました。受験の時にも実技指導をして下さり、二年かかりましたが岩手大学教育学部中学校教員養成課程保健体育科に合格することができました。大学卒業後、岩手大学と盛岡大学で非常勤講師をしていた際にも教員として本校に呼んで下さり、母校で教鞭をとるという幸運に恵まれ幸せでした。誠にありがとうございました。

赴任してからは夏はソフトテニス部（杉村先生はその時の二年生でした）、冬はアイスホッケー部の副顧問を三年間務め、どちらも頑張っていて、インターハイに出場してました。アイスホッケーでは当時の人気番組の「元気が出るテレビ」にも取り上げられたりして、とても貴重な体験をしました。その傍ら、自分ではプレーヤーとしてテニスの県大会に出場して優勝したりしていたので、三年目にそれを知っていたテニスをやりたいという生徒が集まって同好会を発足させ翌年にクラブとなり、その二年後に部に昇格して現在に至りました。テニス部が成績を出すまでは、プレーヤーとして頑張っている姿を見せないといけないと思って国体に出場していたのですが、それなりに強くなってくると指導に専念する必要があり現役を退きました。

何よりもテニスを通じて基本的な生活態度を身につけ、社会に出ても一人前として通用する人格形成を重うまければ良いという考えは持たせないように指導してきました。普段の生活態度の重要性は、どの種目に関しても共通のものであり勝っているチームでは鉄則となっています。まずは、挨拶・礼儀・感謝の気持ち・身だしなみ等をしっかりとやってみて下さい。今までとは違った世界が見えてくることでしょう。

ここ五年間で春、秋とも三年生の諸君、残された高校生活も一年を切りました。自分の進路をしっかりと見据え、夢を実現できるよう、そして岩高に入って良かったと思える毎日を過ごして下さい。

「継続は力なり」「結果のでない努力は努力じゃない」

これからはOBとして、みんなの頑張りを応援します。二十一年間、ありがとうございました。

小畑勝行先生
読書エッセイが奨励賞に

◀平成15年2月6日付　盛岡タイムスより

読書週間というのをご存じだろうか。

その歴史は古く、関東大震災の翌年、大正十三年に始まるという。期間は十一月中旬の一週間だったらしい。

その後、十一月三日の文化の日を中心にした二週間ということで、十月二十七日から十一月九日になり、今に至っている。

実は、読書週間は一つではない。「こどもの読書週間」、「雑誌月間」などというのもあるのだ。以上は全国的なものである。

さらに加えて、岩手の読書週間というのもある。今年で四十三回を数える。こちらの期間は、二月一日から十四日までの二週間である。

その岩手の読書週間に、読書推進評語・エッセイ・手づくり絵本の公募が行われていた。

我が校の小畑先生が、エッセイ部門に初めて投稿をなさり、見事に奨励賞を受賞された。

左が盛岡タイムスに掲載された先生の文章である。

岩手の読書週間　エッセー入賞作品　④

読書の秋である。日曜の午後など、コーヒーを飲みながら好きな本のページを繰る時、人生の至福をしみじみ思うことがある。

私が若い頃から愛読してきたのは「戦後文学」である。野間宏、椎名麟三、中村真一郎、梅崎春生、武田泰淳、大岡昇平、三島由紀夫たちがキラ星のように輝いて見えた。かれらの作品は、人生いかに生きるべきかと文学のみならず哲学的な思索に私を誘ってくれた。

やがて、村上龍や吉本ばなたちが登場するようになると、私は感覚的についてゆけず、あまり現代文学を読まなくなってしまった。ある年齢になったなければ、わからないもの、書けないものはある。しかし同時に、ある年齢になると、わからなくなるもの、書けなくなるものだってあるのだ。だから若い世代の作家たちが新しい感覚や感受性で書いているものを否定するつもりはないが、感覚のズレを感じたりして敬遠してしまう。現在広く読まれているのミステリー小説のようである。書店に行くと、美しい装丁の分厚いそれらの本が所狭しと並んでいる。私も、時期、高村薫、宮部みゆき、桜庭真砂子、藤田節子といった作家のものを読んで、彼ならの男性作家に引けを取らない筆力に感じさせられた。中でも高村の「レディ・ジョーカー」と宮部の「理由」は、ともに時代の全体と向き合い、複雑な社会構造まで切り込み、歴史への洞察にもすぐれたものがある。

だが、多くのミステリーないしエンターテインメントの作品は、読んでいる時は楽しいけれども長く心に残るものは少ないようだ。その点で蟲膜の引き倒しになるが、わが戦後文学はもっと多くのものを私に与えてくれたと思う。

戦後文学の作家たちは、かれらの体験した戦場、外地、監獄、兵営あるいは病棟などを題材にしたものが多い。そのため、戦前の私小説の伝統的美意識とは断絶したところで、思想や理念、論理性を追求している。

たとえば、野間宏の「崩解感覚」「真空地帯」、大岡昇平の「俘虜記」「野火」「レイテ戦記」などは、極限状況に置かれた人間の悲惨な姿を描き、戦争や軍隊の非人間性を告発している。また椎名麟三は、「深夜の酒宴」「永遠なる序章」などで廃墟に生きる人間の実存と人生の究極の意味を掘り下げている。

由紀夫は、明晰で理知的な文体で「金閣寺」「豊饒の海」など、戦後を代表する作品を書いた。彼の作品は古典主義、反近代のロマネスクとよばれているが、「鏡子の家」「宴のあと」「綿と明察」などを読むと、彼もまた戦後社会に生きる矛盾に引き裂かれているのがわかる。その三島の自殺に際して「果敢な敵

奨励賞

「戦後文学と私」

盛岡市　小畑勝行

る。あるいは椎名と同じキリスト教作家で、椎名に欠けていた原罪意識をテーマとして追求した遠藤周作がいる。彼の「沈黙」や「死海のほとり」「深い河」は、日本の土壌にキリスト教文学を定着させたもので、海外のカトリック作家に比べても遜色がないと思われる。

さらに戦後文学の鬼才、三島

の死悲しと述べた高橋巳は、戦後文学の巨匠とよばれた作家たちはみな鬼籍に入ってしまわれた。そしてかれらの作品が国語の教科書に載ることもほとんどない。何ごろ不思議な作品が削られるご時世である。人間の内面を凝視し自我のありようを重厚な文体で描いた文学の作品は、思想や論理性を重視した戦後文学とどこか通じるものがあるような気がする。国語の授業から、そうした人間心理の襞にまで分け入って深く論理的に考える機会の失われることは、生徒にとって不幸なことにならないであろうか。

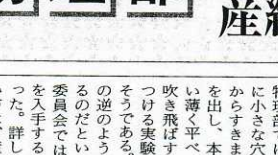
いわゆるバブルの崩壊によって、それまで常識的に信じられてきた高度経済成長社会の価値観と希望とが消滅し、巷では第二の「戦後」の言葉さえささやかれている。前途に希望の持てない、出口の見つからない袋小路に迷い込んだような閉塞感は、あの終戦直後の混迷に似通うものがあるのかもしれない。

戦後文学は退潮して小説からは持たせないように指導してきました。普段の生活態度の重要性は、どの種目に関しても共通のものであり勝っているチームでは鉄則となっています。まずは、挨拶・礼儀・感謝の気持ち・身だしなみ等をしっかりとやってみて下さい。今までとは違った世界が見えてくることでしょう。

ここ五年間で春、秋とも三年生の諸君、残された高校生活も一年を切りました。自分の進路をしっかりと見据え、夢を実現できるよう、そして岩高に入って良かったと思える毎日を過ごして下さい。

「継続は力なり」「結果のでない努力は努力じゃない」

これからはOBとして、みんなの頑張りを応援します。二十一年間、ありがとうございました。



小畑先生は、学校誌『石桜』に、日本の「戦後文学」の作家の評伝を毎年寄稿してくださっている。

エッセーの中で言及されている、野間宏、大岡昇平、三島由紀夫、高橋和巳は、かつて評伝でとりあげられたことのある作家である。そして、遠藤周作は、今春発刊された『石桜』でとりあげられていたのだった。

つまり、このエッセーは、これまで『石桜』の評伝でとりあげた作家への関心のありかたを一つの流れの中であらためて見せてくださったものと言えそうである。

物理部　その研究が産経新聞に掲載される

物理部が行っている研究が産経新聞で報道された。全国紙に掲載されたことによって、研究の優先権（プライオリティー）が得られることになるのだという。研究の内容は、ベルヌーイの定理というものを応用しているという。空気の流れは、速い所で圧力が低くなり、遅い所で圧力は高いことになる。そして、空気は、圧力の高い所から低い所へ流れて均質になろうとする。これで、力が発生するのである。高速で通過する列車に、停車中の列車が引き寄せられてしまうのも、このベルヌーイの定理によるという。物理部では、ペットボトルに小さな穴を空けて、そこからすきま風のように空気を出し、本来は粘着力の無い薄く平べったい金属片を、吹き飛ばすのでなく、くっつける実験をしているのだそうである。ホバークラフトの逆のようなことをしているのだという。残念ながら、委員会では、掲載紙の複写を入手することができなかった。詳しいことを知りたい方は、産経新聞のバックナンバーが保管してある施設に当たっていただきたい。

はみだしコラム　編集委員より

先日、部紹介が行われた。予想していたものよりもまじめに進んでいった。

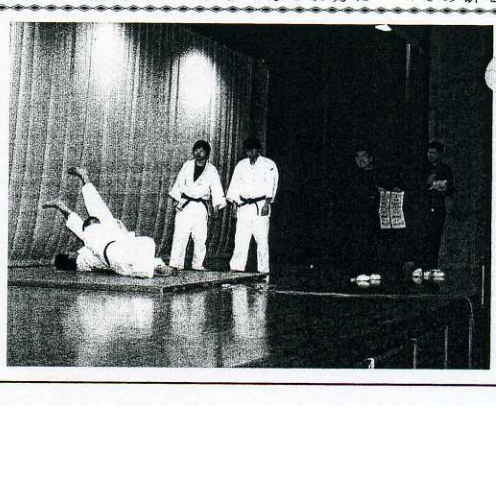
少々もの足りない感じがしていたと、陸上部の部紹介が始まった。初めは、どこが陸上部の紹介なのか、という疑問が出てしまうほど意味不明だった。しかし、よく見ると、さりげなく陸上部の紹介がされていた。しかし、やはり事前に陸上部だと言われていなければ、とても気づかないだろうと思えてしまうほどだった。

部紹介では、いまいち、内容と楽しさが伝わってこなかった。しかし、紹介する時の先輩のやる気や期待はとても伝わってきた。

先輩が言うとおり、高校の部活は辛いだろう。しかし、辛いことをやり遂げた時の達成感、喜びもまたそれに比例するほどだろうと思った。

中学の時とは明らかにちがう環境で、新たな自分を発見できるチャンスとなり得るのではないだろうか。部紹介の段階でその部活について全てを知るのは無理だろう。しかし、それは新しい環境で当たり前のことだ。時間がかかっても、興味を持てなかった部活についても知っておこうと思った。きっと自身のためになるのだから。

【一D　高橋多文】



クラブ活動報告

柔道部

○第25回県段別選手権
2月2日(日)
岩手県営武道館
初段の部
一年
一戸研太　二回戦負け
熊谷英樹　三回戦負け
長門善大　二回戦負け
中村彰圭　三回戦負け
西川　潤　二回戦負け
二年
金谷竜一　三回戦負け
澤内慶太　二回戦負け
原　寛裕　二回戦負け
藤原蔵ノ介　二回戦負け

スキー部

○県中体・県高体
1月13日(月)～16日(木)
安比スキー場
SL
三甲　田口智康　十五位
三B　小野寺　二位
三C　檜山　三位
GS
三C　檜山　三位
○県民体
1月17日(金)・18日(土)
SL
檜山　四位
GS
檜山　五位
○第52回全国高等学校大会
1月31日(金)～2月7日(金)
岐阜県朴の木平スキー場
GS
三C　檜山　79
SL
三C　檜山　56 57
三B　小野寺
○盛岡市民体育大会
2月8日(土)
岩山スキー場
高校の部
三C　檜山　一位
三B　小野寺　二位
二B　近藤　三位
中学三年の部
田口　一位
中学一年の部
小野寺　一位
○JTBカップ県大会
2月9日(日)
夏油高原スキー場
中学三年の部
田口　四位
中学一年の部
小野寺　四位
両名とも東北大会出場権獲得
○全日本学生アルペン選抜大会
2月12日(水)～15日(土)
雫石スキー場
SL　檜山　一位、九位
GS　檜山　二十一位
熊谷　二十二位
近藤　三十位
○JTBカップ
2月8日(土)
夏油スキー場
中学三年男子の部
三甲　田口　四位
中学一年男子の部
一甲　小野寺　四位
※六位まで東北大会出場
○盛岡市民体育大会
2月9日(日)
岩山スキー場
中学三年男子の部
三甲　田口　一位
中学一年男子の部
一甲　小野寺　一位
一般男子の部
三C　檜山　一位
一甲　小野寺
二B　近藤　三位
○全日本学生B級選抜大会
2月12日(水)～15日(土)
三C　檜山　SL　1、9
GS　21、13　秋田・合川高
二B　熊谷　SL　17、62
GS　22、54　青森・弘前実業高
二B　近藤　SL　74、38
GS　32、32　青森・五所川原高
三甲　田口　SL　97、89
GS　91、96　青森・黒石商高
一甲　小野寺SL　82、90
GS 115、98
◎国民体育大会
2月19日(水)～26日(水)
北海道　名寄
三C檜山　19位
※JOCジュニアオリンピック出場権獲得
○蔵王温泉GSL、SL、B級大会
2月26日(水)、27日(木)
二B　熊谷GS33　SL33
二B　近藤GS36　SL95
○JTBカップ東北決勝大会
2月28日(金)～3月1日(日)
中学三年男子の部
三甲　田口　19位
中学一年男子の部
一甲　小野寺　DF
○松尾八幡平アルペン
3月9日(日)
中学男子の部
一甲　小野寺　10位
三甲　田口　21位
高校男子の部
2B　熊谷　1位
2B　近藤　2位
1C　工藤　3位
○蔵王ライザアルペン
3月9日(日)～12日(水)
二B　熊谷　GS55
スーパーG30、51
二B　近藤　GS93
スーパーG114、95

ソフトテニス部

○第20回宮古協会長杯室内大会
1月25日(土)・26日(日)
予選会
優勝　中村一B・杉田一B
本戦会
第三位　佐藤二D・吉田一D
ベスト8
田村一B・中村二E
○第2回ヨネックス杯争奪大会
3月7日(金)
0－3　秋田・合川高
3－0　青森戸山高
2－1　青森・弘前実業高
3－0　青森・五所川原高
1－2　青森・黒石商高
三位
・顧問（東先生）感想＝ケガ人がいる中でまずまずの戦いでした。全日本私学、カワサキ、オダワラと大会と研修会を経験し、何とかインハイにこぎつけたいと思います。

テニス部

○第15回盛岡市インドアテニストーナメント
1月18日(土)・19日(日)
県営武道館
ダブルス
準優勝
吉田泰久・谷地彬人
三位　吉田隆司・林一貴
鳥居和幸・本宮知之
○第18回東北インドア選手権大会
2月21日(金)～23日(日)
シェルコム仙台
竹浪康弘・石田孝啓
準優勝
布台容・川崎龍一郎
ベスト8
・顧問（杉村先生）感想＝竹浪・石田がまさか負けるとは思わなかった。調子も良く、モチベーションも高かった。決勝も同様であったが、相手のショットが良く、受け側にまわってしまった。攻めながら守る、守りながら攻めるというテニスが必要であったかもしれない。キープする力が足りないので、サービスの強化は必要な課題だと確信した。▼布台・川崎は第2シードに競った試合をした。課題も見つかり、次は確実に勝てるだろうと思う。
○第24回全国選抜高等学校大会
3月19日(水)～26日(水)
北九州プリンスホテルテニスセンター
団体
（竹浪康弘、本宮知之、鳥居和幸、吉田泰久、古館雅、前田潤、畠山賢一、石田孝啓、川崎龍一郎）
優勝
・顧問（本多先生）感想＝ダブルスが弱かった。もっとダブルスを鍛えないと勝つことができない。シングルスは同じか、やや勝っていた。高総体では勝てるように頑張ろう。
○第10回東北春季ジュニア大会
3月29日(土)～31日(月)
泉総合運動場
18歳以下　シングルス
二C　布台容　予選決勝
敗退
一A　石田孝啓　本戦2
R敗退
二A　竹浪康弘　ベスト8
16歳以下　シングルス
一A　川崎龍一郎　三位
二甲　谷地彬人　三位
・顧問（杉村先生）感想＝期待された竹浪康弘、石田孝啓は、ともに長期遠征のため疲れとけがで思うような試合ができなかった。今後、体のケアをきちんとする必要がある。川崎龍一郎と谷地彬人は、どちらも優勝するチャンスもあったが、結果として負けてしまった。ゲームポイント、マッチポイントの取り方を練習しなければ、また同じような負けを繰り返すと思われる。今後の課題が見えた大会であった。

バスケットボール部

○第13回東北高等学校男女新人選手権大会岩手県予選
1月18日(土)・19日(日)
岩手県営体育館
対　盛岡一　48－95
○第51回岩手宮城対県選抜大会
2月7日(金)～9日(土)
一関総合体育館

盛岡三				仙台商業			
8	18	16	22	19	12	12	13
29	15	21	12	26	26	43	24
77				119			
64				56			

二年岩泉　三勝一敗
一年佐々木　三勝三敗
二年熊谷　三勝一敗
一年荻本　一勝三敗
二年村上　三勝一敗
二年菅原　二勝二敗
二年和地　四敗
○第6回全国学生選手権
3月25日(火)～29日(土)
団体戦
4－1　東大寺学園高
2－3　甲南高
1－4　海城高
1－4　麻布高
2－3　島根大
1勝4敗
総合五十六位（64チーム中）
高校十位（11チーム中）
個人戦
一D　澤口竜一
決勝トーナメント進出
・顧問（藤原先生）感想＝昨年と比べ、弱いメンバーであり、団体は全敗を覚悟していた。初戦の東大寺学園は、全国優勝したばかりの勢いのある強敵で、それに勝ったのが奇跡といえる。個人戦は澤口のみ決勝トーナメントに残った。あとの選手は、最後の一局に勝てば進出という段階で脱落した。全国シードを失い、予備予選から出場しなければ、次回、出られない。立て直しを目指す。

文化部の活躍

将棋部

○第11回高文連全国新人大会
2月5日(水)～9日(日)
予選
二D　庵原佑
1－2　敗退
○県高文連盛岡支部順位戦
2月8日(土)
本校

最近のニュースから⑧

フセイン政権の崩壊

イラク戦争で、米軍部隊が、四月十日、首都バグダットを陥落し、フセイン政権が崩壊した。イラク軍からの目立つ攻撃は無かった。チェイニー米副大統領は、「フセイン政権崩壊の証拠を目撃している」と述べて、イラク政権の崩壊を確認した。これにより、戦後の復興の動きが加速される。

そして、それとともにフセイン大統領の行方が追われている。

米軍は、七日、米情報機関が得た情報を基に、フセイン大統領がいたとみられる市内の民家を集中空爆したが、米政府は、「大統領の消息は不明」としていた。

今後、米・英軍は、戦後のイラクの復興と、バグダット市内や大統領の故郷テイクリットに残る、イラク軍部隊の掃討を行う。

フセインの消息が分かるのは、まだ時間がかかるだろう。

【一B　平砂直之】

イラク戦争の最近情勢としては、イラクの首都にアメリカが入り、バグダットを制圧している。そして、アメリカと反フセイン派の人々がフセインの銅像を壊した。その少し前には、アメリカ軍が、間違って、マスコミも砲撃していた。

この戦争はもう三週間経っているのだった。

「今日が一本目」

二〇〇三年四月八日（日本時間九日）に、ヤンキー・スタジアムで行われたツインズ対ヤンキースの試合は、ゴジラのごとく、松井秀喜の打った球がたくさん集まった観客のいる右中間スタンドに見事に突き抜けた。これがヤンキース入りして初めての満塁ホームラン第一号である。

試合終了後、松井選手は、「やはり、これまでの本塁打とは違いますね。打った場所が違いますから。三三三本目ではありません。今日が一本目です」と語った。

また、対戦相手のツインズ監督は、「松井に本塁打はないと読んで、ウィリアムズを敬遠した作戦が失敗だった。彼は失投をどう打つべきかを知っていた。メジャーでは新人かもしれないが、そうではなかった。素晴らしいベテラン選手が強力打線に加わった」と語った。

【一E　鳴海司郎】

松井選手がんばれ

僕が最近のニュースを見ていちばん頭に印象に残っているのは、今年、メジャーのニューヨークヤンキースというチームに行った松井選手のことです。

松井選手は開幕戦から六試合連続ヒットを打っていてすごいと思いました。次の試合には松井の親が見に来ました。松井は、その試合で、初めて、メジャーでホームランを打ちました。しかも、そのホームランは、満塁ホームランでした。松井の満塁ホームランは、ヤンキースのホーム一試合目で放ったもので、ヤンキース史上初めての事とかで、すごいと思った。松井には、これからもがんばってほしいと思う。

【二E　加藤隆幸】

夢を求める姿

つい先日、ニューヨークを興奮させたヤンキースの松井選手について述べる。

ニューヨークのヤンキー・スタジアムで行われたヤンキース×ツインズ戦で松井選手は満塁ホームランを打った。ホームでは初めてのホームラン。それも満塁ホームランで、ヤンキースのファンを喜ばせてくれた松井選手は、守備の方でも、いいプレーを見せてくれた。

夢を求め、巨人軍からメジャーリーグに行ってヤンキースに入団したが、周りからいろいろなプレッシャーを受けていた。にもかかわらず、メジャーに行ってすぐ良い成績を出せるのはさすがだ。しかもオープン戦から打ったのもすごい。まさかニューヨークのデビュー戦で満塁ホームランを打つとはだれも想像しなかったと思う。

日本でも松井選手がニューヨークのデビュー戦でホームランを打ったことは大きなニュースになった。

【二B　金子智史】

松井に期待

松井に期待していた。おれは巨人ファンだった。巨人の中でも松井が一番だったんだ。あいつは、高校からすごかったから、おれはメジャーリーグにいってやってもぜったいやってくれると信じていた。

キャンプに入り、松井はやってくれた。ホームラン。さすが松井。でも調子はいいはずが、メジャーリーグのボールに手を出せなくなった。それはカットボール。その球は、ストレートとは違い、ちょっと落ちるボール。松井は打てなくなった。

なんだかんだいって、開幕し、まずまずのスタートを切ってくれた。松井がいつ、ホームランを打ってくれるか、ドキドキしていた。そしたら、なんと、満塁ホームランを打ってくれた。松井、最高だ。一本目が満塁ホームランなんて。そして、それからもヒットを打った。それと、このまえ、松井の打ったヒットが二点入り、それが毛決勝点になった。

松井はこれかもやってくれるだろう。そして、きっと。いや、必ず、大スターになるだろう。そして、メジャーリーグで三冠王になってほしい。

頑張れ松井。

【三A　佐々木司】

編集後記

今年度、最初の学校新聞です。

離任された先生から、生徒の皆さんへの言葉をいただきました。この言葉を、よく考えて、生活していきたいと思います。

【三A　佐々木信】

編集協力
写真提供　竹本先生